

History

キラリを再発見

新野氏の詰の城の 可能性がある城跡

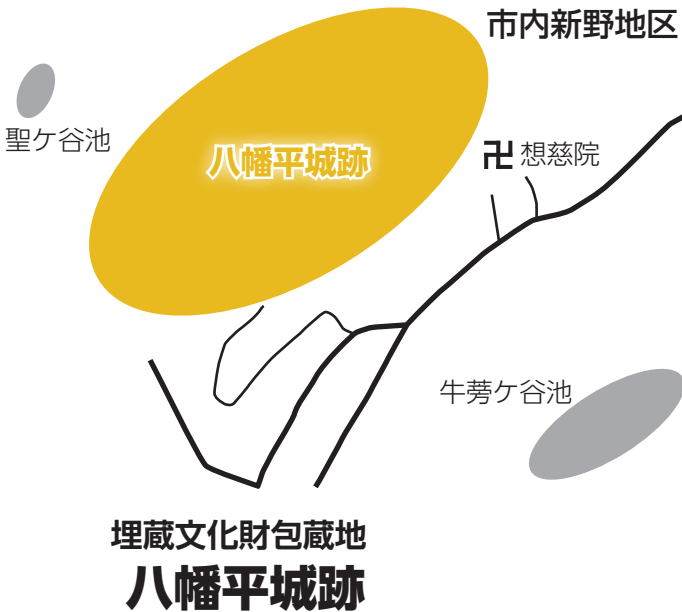
八幡平城跡は、新野地区篠ケ谷・有ケ谷にある台地尾根上に築かれた平山城で、最高地点は標高約105m、比高約65mです。その城域は、南北約600m、東西400mと広大で、南の「一の曲輪」と北の「二の曲輪」で構成されています。本曲輪と見られる一の曲輪が「八幡平」と呼ばれていることが名前の由来になっています。一の曲輪は、土塁が認められず、低い土居をもつ帯曲輪と堀切で守られています。二の曲輪は、自然地形をそのまま利用した帯曲輪と堀切で守られています。また、武田式築城法の特徴である二条堀切と横堀が見られることから、今川系新野氏によって築かれた城が、後に武田氏によって高天神城とのつなぎの城として修築、再利用されたと考えられます。

なお、今川系新野氏の城としては、南西側に隣接する舟ケ谷の城山にもその伝承があることから、八幡平城跡は舟ケ谷の城山の詰の城として使われた可能性があります。

照会 社会教育課 ☎0548⑥1129



▲八幡平城跡一の曲輪の現状



防波壁を視察



緊急時対策所で説明を聞く様子

国際原子力機関（IAEA）の原子力施設安全部長リジェットコフスキー氏と国際耐震安全センター長サマダー氏が7月7日、浜岡原子力発電所の安全性向上対策工事の実施状況を視察しました。防波壁工事現場や緊急時対策所などを視察後、リジェットコフスキー氏は浜岡原子力発電所の大地震や大津波への高いリスクを認めた上で「特に地震対策に感銘を受けた。津波対策などさまざまな安全

対策もとられていた。過酷な事故を防ぐための対策も講じられているが、それに加えて万が一事故が起きたとしても、その影響を緩和するための方策もとられていることを見るのができた」と浜岡原子力発電所の安全性向上対策を評価しました。

※国際原子力機関（IAEA）…国際連合傘下の国際機関で、原子力の平和利用を促進し、軍事転用されないための保障措置などを行っています。

Atomic

暮らしと原子力

国際原子力機関幹部が
浜岡原子力発電所を視察